



以前、マチャフシア일랜드リゾートという名前でダイバーに親しまれていたリゾートアイランドが
 3年の歳月を経て、装いも新たに生まれ変わった。
 タイのセンターラホテルグループが、初めてモルディブにリゾートホテルを建設。
 本場タイの本格的スパと、ジンベエザメやマンタポイントにも行きやすい立地、
 ハウスリーフの魅力もそのままに、2009年12月、南アリ環礁にグランドオープンした。

Photo&text **Takaji Ochi**
 Special Thanks **Centara Grand Island Resort & Spa**
World Tour Planners
 Design **Sana** ☆

Maldives

新たな樂園がまたひとつ

Centara Grand Island Resort & Spa



モルディブには、すでに100以上ものリゾートアイランドがあると云う。そんな数の中で、どのようにして、どのリゾートをセレクトするかは、多いに悩むところだろう。大物狙いであれば、最近のダイバーの間ではダイブサファリが人気だが、ここに、以前からジンベエザメやマンタのポイントがフルシーズン、デイトリップで射程圏内にあるリゾートアイランドが復活したと聞いた。それが、センターラグラウンドアイランドリゾート&スパ。タイのホテルグループが資本のリゾート

で、海外でのリゾート建設を手がけるのは、インドに次いで2つめのことだという。本格的、タイ式SPAを楽しめるダイビングパラダイス。その様子を見てみることにした。

スリランカ航空で、モルディブのマーレ国際空港に到着すると、まずはトランジットホテルで一泊。翌日、リゾート行きのウォータータクシーと呼ばれる、モルジビアンエアという会社が運営する、水上飛行機に搭乗する。何機もの水上飛行機が環礁内から離発着する姿は、モルディブ通で

なければ、とても新鮮な光景だろう。自分もそれほど頻繁にモルディブを訪れて取材してるわけではなく、乗り馴れていないから、水上を飛び立つ瞬間はプロペラと水面を疾走する機体が気になって、窓越しに外観を凝視してしまった。

しかし、それもつかの間、眼下に美しい環礁の様子が映し出されると、もう乗り馴れない機体のことよりも、美しい風景に釘付けになってしまった。いくつものリゾートアイランドを見下ろしながら、首都マーレのある北マーレ環礁と南

マーレ環礁を抜けて西隣のアリ環礁まで、約25分程度の遊覧飛行を楽しんだ。一昔前のスピードボートでの移動であれば、2時間の距離だという。

眼下に目的のセンターラグラウンドアイランドリゾート&スパが見えて来た。しかし、残念ながら、僕が座ったのは、見える側と反対の座席。しょうがないので、身を乗り出して、パイロットが操縦桿を握る前方の窓から、リゾートを撮影することにした。

水上飛行機のプロペラ音が、高揚感をさらにかきたてる

Elevation



01/モルジビアンエアのウォータータクシーに、乗り込む

02/眼下に環礁内の美しいリーフが見え始める



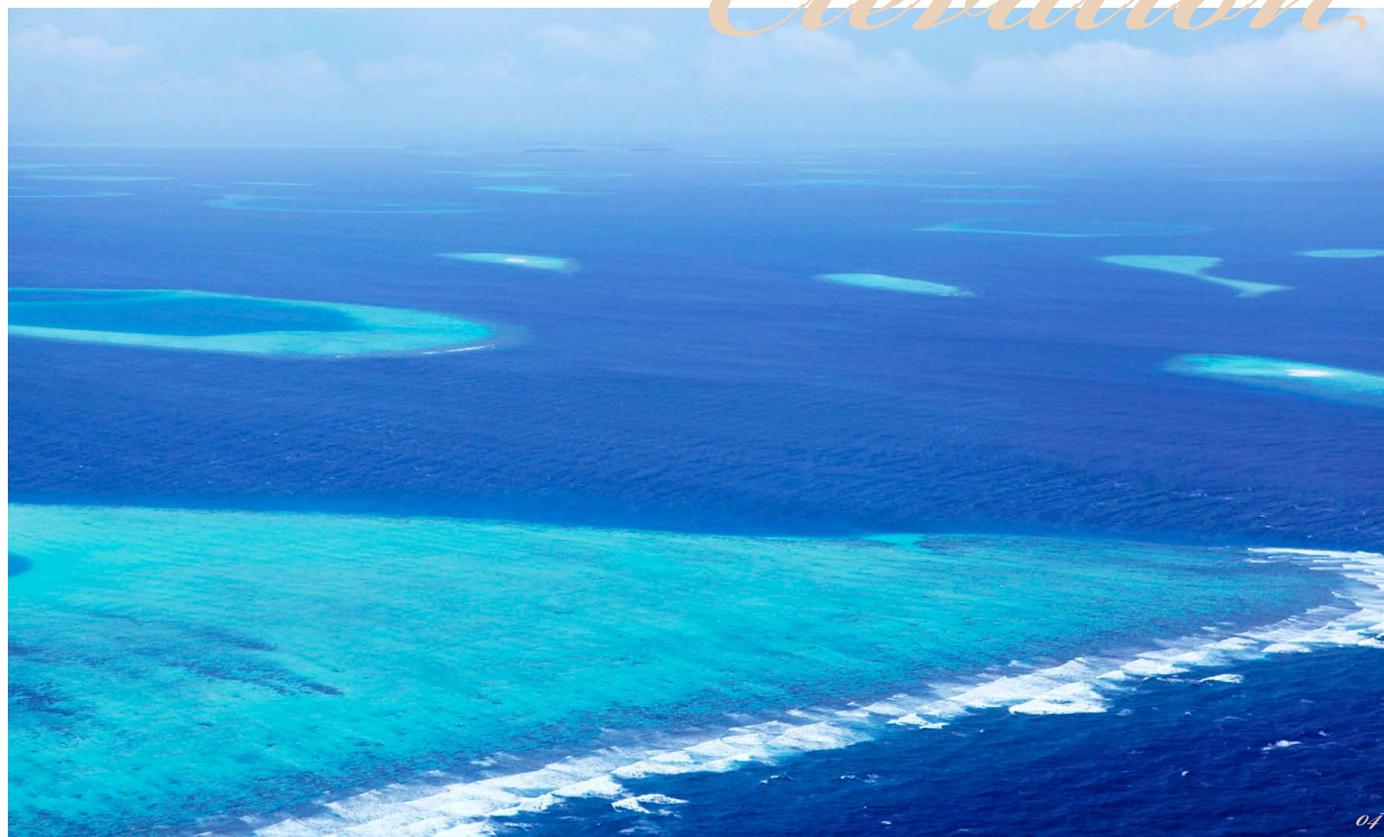
02



03

03/パイロット越しに、リゾートを撮影

04/環礁内の美しい光景に見とれてしまう



04



01/ 島側から見た、レセプションとイタリアンレストラン
 02/ ゲストを出迎えてくれるレセプションは国際色豊かなスタッフが働く
 03/ 島には、センターラの旗がなびいていた

Excitement

高まる期待を胸に、海の上のレセプションへ



ウォータータクシーがリゾート近くに着水すると、浮き桟橋に横付けして出迎えてくれたドーニに乗り移り、レセプションへと導かれる。センターラのレセプションは、34室あるラグジュアリーウォーターヴィラへ続く桟橋の途中にある。

04/ メインプールはレセプションとは反対側に
 05/ プールに隣接する“Coral Bar”

レセプションでは、日本人ゲストリレーションのハルカさんが笑顔で出迎えてくれた。

島は1周、徒歩で約15分。高級志向というよりは、カジュアルで、若いカップルやファミリーが気軽にアクティビティーを楽しめそうな雰囲気。オールインクルーシブ（注：含まれていないものもあるので、確認が必要です）だから、レセプションとは島の反対側にあるプールサイドでくつろいで、隣接するメインバー“Coral”で、好きなときにフリードリンクを楽しめたりするのも嬉しい。



バーの2階ではビリヤードも楽しめる

新たな発掘がまたひとつ
Maldives

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Centara Grand Island Resort & Spa
 センターラ グランドアイランド リゾート&スパ
Web-lue 2010. Winter



Information Link
http://maldives.cx/resort/details/detail_164.html

←click! 関連情報HPへ

部屋のカテゴリーは、42室のビーチスイート、34室のラグジュアリーウォーターヴィラ、18室のデラックスウォーターヴィラ、10室のデラックスファミリーウォーターヴィラ、そして8室のラグジュアリービーチフロントプールヴィラの5つ。

水上ヴィラは、明るく開放的。部屋数が多いのは少し気になるところだけど、特徴としては家族（大人2人+子供2人など）で入れるヴィラがビーチスイート、デラックスファミリーウォーターヴィラの2タイプあること。デラックスファミリーウォーターヴィラには、2人用の勉強机もあるなど、ファミリーでの滞在に利用しやすくなっている。

ラグジュアリーヴィラは、島の西側にあるものの、全ての部屋がサンセット向きではないので、リクエスト時に注意が必要。



ビーチスイートと、ラグジュアリービーチフロントウォーターヴィラは、アイランドバスタブと呼ばれる屋外のバスルームになっていて、とても開放的。

ラグジュアリーウォーターヴィラ、デラックスウォーターヴィラの2カテゴリーは、アイランドクラブに申し込むと、ライブラリー、レストラン、プールのある、アイランドクラブ専用ラウンジが利用できたりなどの特典がある。



01/ビーチスイートの屋外バスルーム



02/ラグジュアリーウォーターヴィラのバスルーム

03/レセプションから見た、ラグジュアリーウォーターヴィラ

04/ラグジュアリーウォーターヴィラの室内



05/デラックスファミリーウォーターヴィラの室内

06/デラックスファミリーウォーターヴィラの子供用ベッドと勉強机

07/デラックスウォーターヴィラの室内



Luxury
上質かつ心地よい空間で寛ぐ

タイ式本格スパで最高のリラクゼーションを
Relaxation



タイの本格的なマッサージが楽しめる



01/セラピストは、タイやバリから
02/アユールベータも体験できる



モルディブで定番のスパ。“Cenvaree”では、マッサージの本場タイ資本のリゾートだけあって、本格的。タイ式マッサージの他にも、アユールベータのコースや、パリススタイル、アロマセラピー、スエディッシュ、アスレチックタッチ、フットマッサージなど様々な種類のマッサージも受けられる。カップルパッケージには、5時間のハネムーンリトリートコースや、3時間半のコースがある。

男性向けのコースも用意されている。エクセクレーブフォーマンは、男性向けの2時間のストレスリリーフ、チリアウト、90分のスリープウエル、60分のフェイシャル、ソー

ルドライト、スポーツマニキュアなどのコースが楽しめる。

スパネイルズフォーハーは、女性向けマニキュアやボディキュアのお手入れコース、ヘアスカルプケアは、パリススタイルのヘアクリームバスやアユールベータのヘアレメディーなどがある。

ヘアサロンもあり、リゾートでウェディングを行うゲストには、ブライダルメーキャップを行ってくれる。

取材当時は、まだスパ“Cenvaree”が完成していなかったために、部屋に来てマッサージをしてもらったが、2009年12月1日よりオープンしている。



01/イタリアンレストランの“Azzuri Mare”

02/メインレストランの“Reef”



島内には、オールインクループのbuffetが用意されるメインレストランの“Reef”。レストランの床には砂が敷き詰められて、席につくとついつい裸足になって、砂の感触を味わいたくなる。椅子のほとんどがソファタイプで、寛げる。

この他に、レセプション横のイタリアンレストラン“Azzuri Mare”、こちらは、新鮮なシーフードのプラッターや、アンティパストを良質なイタリアンワインと共に楽しむことができる。島中央にある2010年オープン予定のタイレストラン“Lotus”では、本格的なタイ料理が楽しめるだろう。

今回は、メインレストランでのbuffetとイタリアンレストランでの食事を満喫した。buffetは、洋食やエスニック

料理を中心とした食事はどれも美味。和食的な内容も用意されているのが日本人には嬉しい。デザートの種類も豊富で、美味しい。

イタリアレストラン、タイレストランは、別料金でアラカルトメニューが楽しめる。サンセットディナーを楽しみたいのであれば、イタリアンレストランがお勧めだ。気をつけなければいけないのは、オールインクルーシブに含まれるアルコールは、ハウスワインとビールだけだということ。それ以外のプレミアムブランドのアルコールは、どこのレストランでも別途料金がかかるシステムなので、どのように料金が発生するかをしっかりと確認する必要がある。

Satisfaction

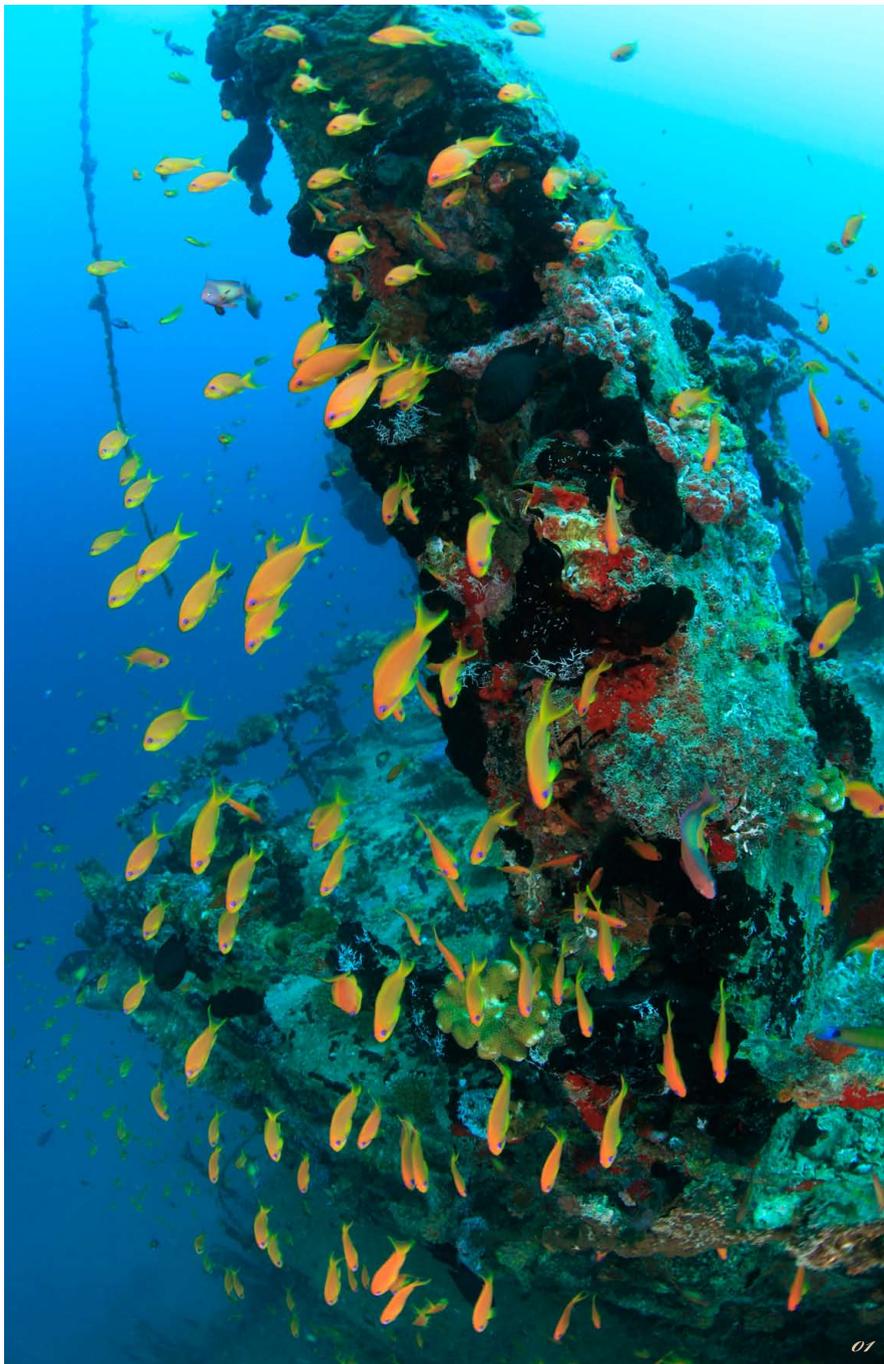
極上の料理に満足感でいっぱい

buffetの食事も美味しいし、デザートも充実。イタリアレストランのアラカルトも美味しい



サンセットディナーは、イタリアンレストランで





- 01/マストの付け根部分に群れるキンギョハナダイ
- 02/沈船の船尾部分
- 03/ツバメウオたちが、群がる
- 04/潜行していくと、ツバメウオたちが出迎えてくれた
- 05/ウメイロモドキの群れも美しい

リゾートに併設されているダイビングセンターは、“Best Dives”。早速そちらにお邪魔して、ダイビングのアレンジをしてもらった。オフィスでの受付を担当してくれたのは、モルディブ歴の長い、日本人ガイドのミワさん。英語、モルディブ語、イタリア語も堪能でとても頼りになる。

最初に潜ったのが、ショップの裏手のステップからエントリーできるハウスリーフ。このリゾートのハウスリーフには、巨大な沈船が沈められている。事故で沈んだのではなく、老朽化した船をダイビングポイントにするために、わざと沈めたものだという。近隣のリゾートやダイブサファリのボートが、ポイントとしても頻繁に利用している。

ハウスリーフのボトムに平行に沈められた沈船は、ボトムで30m、全長は52m。潜行していくと、まず最初に出迎えてくれるのが、ツバメウオたち。かなり人慣れしているらしく、ダイビング中、ワラワラとずっと僕の周囲を取り巻いてくれた。かわいいんだけど、撮影の邪魔になることもあって、「ちょっと君たち、もう、あっち行っていいんだけど」と何度も心の中で念じてみたものの、結局沈船付近にいる間中、まとわりついてくれた。

ボトムの砂地には、固有種のハゼも多く、時折姿を見せる、ウメイロモドキの群れや、マスト部分に群れるキンギョハナダイの乱舞も美しい。

過去と現在に想いを馳せる

Reflection



Emotion

ここでしかない出会いに感動



ハウスリーフに群生するサンゴの上で玉になるパウダーブルーサージョンフィッシュ

ハウスリーフのサンゴは、見事に成長を続けている。各水上ヴィラからは直接ハウスリーフにエントリーできる階段があって、すぐにこのサンゴを満喫することができる。ダイビングでエントリーとなると、ドロップオフまで少し遠いし、潮が引いているとこの元気なサンゴたちが水面に姿を見せるくらいに浅くなってしまうので、基本的にはダイビングショップの裏手にあるステップからエントリーする。

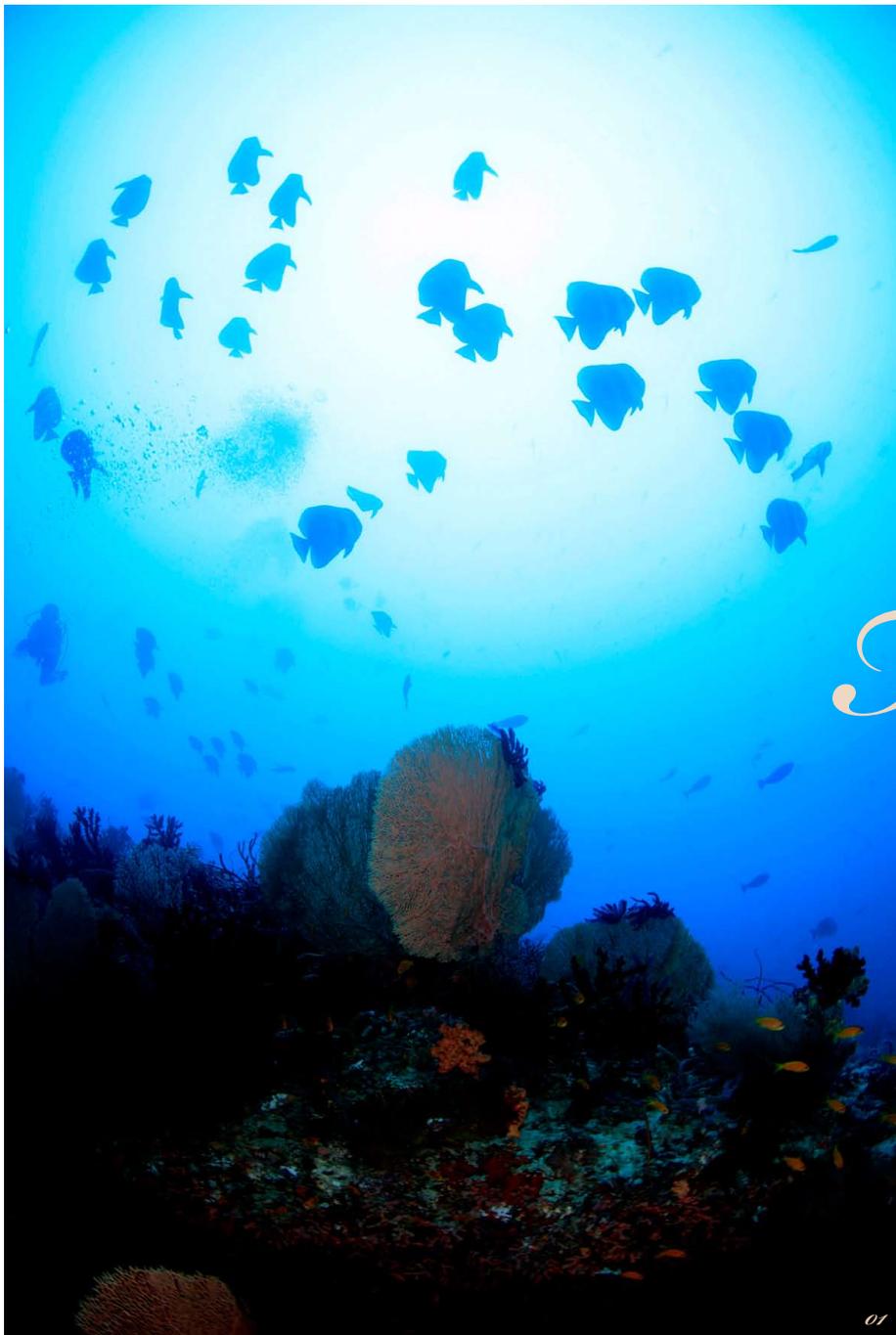
ボートダイビングを終えて一度部屋に戻り、スノーケルでサンゴを撮影していたら、突然、浅瀬にパウダーブルーサージョンフィッシュの塊を発見！ダイバーの中には、この「パウダー玉」を一目みたい、あるいは撮影したいと、訪れる人も少なく無い。それがこんなに簡単に、しかもこんな浅いサンゴの上で見られるとは！と興奮しながら、撮影を続けた。

残念なことに、滞在中曇り空が多かったので撮影できなかったけど、これだけ浅ければ、サンゴとパウダー玉を絡めて島と空との半水面写真を撮るのも夢じゃない。できればもう一度、快晴のモルディブでそんな写真を撮りたい。

ハウスリーフへのエントリーは、朝9時から夕方4時30分まで。ナイトダイビングは6時30分エントリー、7時30分

エキジット。モルディブでは安全のため、ダイビングは1時間以内にエキジットすることが法律で定められていると今回聞いて驚いた。

この他、環境保護のために、グローブは禁止、ダイビングコンピュータを持っていないと潜らせないなど。しかし、ベストダイブスでは、レンタルのコンピュータを用意してくれている。



01/クダラティラの上で群れるツバメウオ

02/ハウスリーフで見つけたサンゴでできた魚のマンション

03/ヨスジフエダイの群れの密度は圧巻

04/クダラティラのハンゴフの下には、無数のアカマツカサ

05/アンガガティラではウメイロドキの乱舞に遭遇



Fascination 美しい色彩や形に魅了される

ハウスリーフだけでなく、周辺のダイビングスポットも充実している。今回潜ったのは、ドーナツで25分のクダラティラや30分のアンガガティラ。この他、デイトリップで行けるポイント数は23ダイブサイトを数える。ティラ（隠れ根）ダイブ、ウォールドリフトダイブ、チャンネルダイブなど、ポイントバリエーションも豊富だ。

クダラティラは、以前にダイブクルーズでも潜ったこと

のある、南アリ環礁の人気ダイブサイト。巨大な根全体を無数のヨスジフエダイが覆いつくしているシーンは圧巻だ。頭上には、常にツバメウオのシルエットが見えていた。

特に重要なことは、南アリ環礁の丁度中央に位置するために、マンタのポイントと、ジンベエザメのポイントが、オールシーズン通じて、射程圏内にあるということ。これは大きい。





Pleasure

あの人に似た魚を探す楽しみ

フィッシュウォッチングは、どこでも楽しい。センターラのハウスリーフには、イエローヘッドバタフライフィッシュやドラキュラゴビー、パウダーブルーサージョンフィッシュなど、インド洋の固有種もいれば、どこでも見られる魚もいる。

01/ 集団の中で右往左往…アカマツカサ
 02/ 私だけみんなと違う…パウダーブルーサージョンフィッシュとブダイ
 03/ 孤独なタイプ…ヨスジフエダイとツバメウオ
 04/ ひょっとこ口…ムレハタタテダイ
 05/ 目の上のたんこぶ…オニハタタテダイ
 06/ 穴から抜け出せない…ヒトスジギンボ

ハウスリーフはどこもサンゴに覆われていて、こうした魚たちが、数多く生息している。「この魚の顔は、誰かに似てるかも」とか想像しながらのんびりと潜るのも、ときには楽しいかも。

07/ 機会をうかがう…ドラキュラゴビー
 08/ おちよぼ口…パウダーブルーサージョンフィッシュ
 09/ ひょうきんもの…モンハナジャコ
 10/ 口をとがらせてばかり…イエローヘッドバタフライフィッシュ
 11/ 出る杭は打たれる…ヨウジウオの仲間





01/スピードの出る、カーボン製の船体のドーニ

02/新しい店内には、レンタルギアも充実



02

ドーニクルーとダイビングガイドたち



03

運命の出逢いが待っている… Encounter

“Best Dives”は、北アリア環礁のマドゥバリにもあり、今後はガーフ環礁のイラドゥ、シャビアニ環礁のワンガルなどのリゾートにも、入る予定がある。センターラでは、現状、インストラクター3名、ダイブマスター2名でオペレーションを行う。

国際色豊かなリゾートを目指しているため、今後もイタリア人、イギリス人などのスタッフを雇用する予定だ。日本人のミワさんが常駐しているので、言葉の問題も安心だ。新しい店内には、真新しいレンタル機材が揃っている。通常は貸し出しをしていないダイビングコンピューターのレンタル数も多い。

ダイビング用のボートは、トイレ付きのドーニ2隻。うち1隻は、カーボン製の船体を持つスピードの出るものを用意されている。ゲストのダイビングスキルによってボートを振り分けてくれる。通常はハーフデイトリップだが、ジンベエザメ狙いのダイビングの場合は、このスピードの出るドーニを駆使した、フルデイトリップを企画する予定。

ちょっとダイビングの本題からは外れるが、ここのモルディブ人スタッフは、皆イケメン揃い。男性は、あまり興味無いかもしれないけど、カメラマンとしては、モデル並みのルックスのガイドたちだったので、ちょっと集合写真だけではもったいないと思い、大きく取り上げてみた。



日本人女性スタッフ、ミワさん

若手ガイドのイナース



ここでのメインガイドを勤める、シャーン



ウォータースポーツ担当のジュハ



マネージャーのラージー